



障害者について理解を深めてもらおうと  
のぎくの家で夏まつり開催

7月24日、横越上にある視覚重複障害者施設「のぎくの家」(所長 渡辺真由美さん)で夏まつりが行われ、町内外からおよそ300名が訪れました。

このまつりは、イベントを通してみなさんに感謝し、また、多くの人たちと交流しながら障害者について理解を深めてもらおうと毎年行われているもので、今年で10回目。2か月前から準備を進めてきました。

午後5時30分からまつりが始まり、周辺の道路では、ガラクタ市や野菜市、ポップコーンや焼きそばなどの店が立ち並び、ステージでは、通所している人たちによる歌、横越上地区神楽保存会による郷土芸能などが披露されました。夜8時頃には参加者全員で亀田甚句を踊り、楽しいひとときを過ごしました。

わくわく どきどき カヌーに挑戦!  
キッズスポーツ教室開催

今年もキッズスポーツ教室では、7月27日、新津市の市民プールを利用してカヌーの体験学習を開催しました。教室に参加した子どもたちは、ライフジャケットを身に付け、初めてのカヌーに、わくわく、どきどきしながら、インストラクターの説明に興味深く聞き入っていました。パドルを手に、いよいよ乗船。子どもたちは、小さな体で、なかなか進まないカヌーに四苦八苦しながらも、真夏の太陽をいっぱいを受けて元気な歓声をあげていました。

キッズスポーツ教室は、1、2年生の小学生を対象に毎月第2、第4土曜日に開催しており、カヌー教室のほか、マット運動や屋外スポーツ、レクリエーションなども行っています。

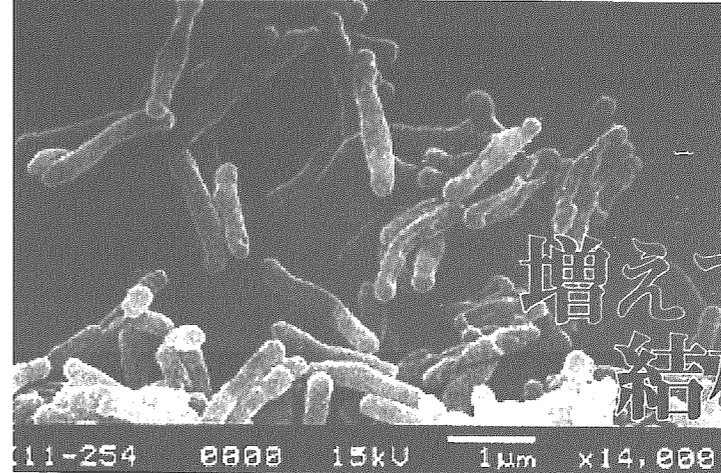


老若男女が願いを込めて火渡り  
恒例の木津薬師火祭り開催

7月28日、木津の薬師堂で恒例の火祭りが行われ、町内外からたくさんの人たちが訪れました。

辺りが薄暗くなり始めた午後7時すぎ、山伏姿の僧がホラ貝を吹きながら境内に入場。「宝弓の儀」や「宝斧の儀」などの儀式を行った後、人の背丈ほどに積み上げられたまきに点火。数メートルの火柱となって赤々と燃える炎と読経により、一帯は幻想的な雰囲気となりました。また、願いを込めた護摩木を炎の中に投げ入れ、合掌する姿も見られました。

下火になったところで、僧たちが火渡りを行った後、僧たちの読経の中、老若男女がそれぞれの願いを込めて、胸に手を合わせながら火渡りをしていました。



結核予防週間 9月24日～30日

増えています!  
結核の集団感染

せきが2週間以上続くようなら病院へ

かつて「国民病」として全国に蔓延し、恐れられた結核が、高齢者を中心に再び増え始めています。高齢者の発病のほか、今年に入って学校や病院での集団感染も目立ってきています。厚生省は今年7月に「結核緊急事態宣言」を発表して一般に注意喚起するほか、結核情報の周知に努めています。

昨年1998年には、結核の集団感染が一年間で41件発生しました。

厚生省によると、94年、95年にそれぞれ11件だった集団感染は、96年に21件、97年には29件と増加を続け、98年は95年の約4倍にのぼっています。

今年もすでに、中学校や病院などでの大規模な集団感染が次々と報告され、厚生省は「結核緊急事態宣言」を発表して医療関係者や一般の人々に注意を呼びかけています。

集団感染が急増した背景には、昭和10、20年代の結核蔓延が考えられます。このとき結核に感染した人々が、現在高齢となって体力が衰えたり抵抗力が弱まったりして結核を再発させ、未感染の若い世代などに感染させてしまうのです。高齢者施設などでもない感染症です。

▲結核菌の長さは1〜4マイクロン(1マイクロンは千分の1ミリ)。いくつもの菌がくっつきあつて房のようになっている。(写真/結核研究所)

一方、新津保健所管内の結核罹患率(1年間に新たに結核として届け出られた患者の人口10万人当たりの数)は横ばいで、平成10年度は25.1%でしたが、全国的には上昇傾向にあるので、油断できない感染症です。

●結核Q&A●

Q なぜ結核になるの?

A 結核は結核菌によって起きます

結核菌は結核患者のせきやくしゃみに乗って周囲に飛び、それが別の人の肺に吸い込まれて感染します。

菌が人の肺の中に入っても、ほとんどの場合発病しませんが、健康状態が悪いと菌が活動を始めます。

Q 結核はどのように進行するの?

A 進行はゆっくりですが、抵抗力の弱い人は要注意。

結核菌は、人体の抵抗力に打ち勝つと、増殖を始めます。これが進むと肺に空洞ができ、せきや痰の中に混じって空気中に吐き出されるようになります。こうなると他人にうつ

す危険性も大きくなります。

結核は比較的ゆっくりと進行しますが、抵抗力のない乳幼児が多量の結核菌を吸い込むと、あつという間に重症化することがあるので注意が必要です。

Q 感染を知る方法は?

A ツベルクリン反応で感染が分かります。

結核菌に感染した人にツベルクリン液を注射すると、皮膚が赤く反応します。

また、結核発見のため、年に1回は胸部レントゲンを受けましょう。今年度の横越町の基本健診は終了しましたので、まだ受けていない方は、医療機関や人間ドックで確実に受けてください。

なお、高齢者に結核の発病が目立ちます。寝たきりの方は結核検診を受けることがで

きないため、町では喀痰検査を実施していますので、ご利用ください。

Q BCGとはなに?

A BCGは結核の重症化を防ぐためのワクチンです。

BCGは毒性を弱くした生きた牛型結核菌で、肺結核の50%を防ぎます。また、特に重い結核症である髄膜炎や粟粒結核の80%以上を防ぎます。乳幼児が結核に感染するところが多いので、生後できるだけ早い時期のBCG接種が望まれます。

Q 結核治療は長引くと聞きましたが?

A 抗結核薬で短期間に行います。

戦後しばらくの間、結核は治療の困難な病気でしたが、今は3〜4種の抗結核薬で短期間(6〜9か月)に治します。しかし放っておいて重症になれば、治療は困難となり、体力のある若い人でも死ぬことがあります。

Q 典型的な症状にはどのようなものがあるの?

A 初期の症状はカゼにそっくりなので見過ごしがち。

結核菌に感染し、防衛に失敗して発病すると、初期のうちはカゼに似た、痰、微熱、寝汗、だるさ等々の症状が出ます。2週間以上せきが続く場合は結核を疑い、病院で診察を受けるようにしてください。さらに病状が進むと、血痰がでたり、喀血したりします。